

令和5年度 明海大学「大学と地域連携の未来シンポジウム」
明海大学浦安キャンパス 2024.2.4 12:40-16:40
大学と地域の連携によるウェルビーイングの推進の可能性

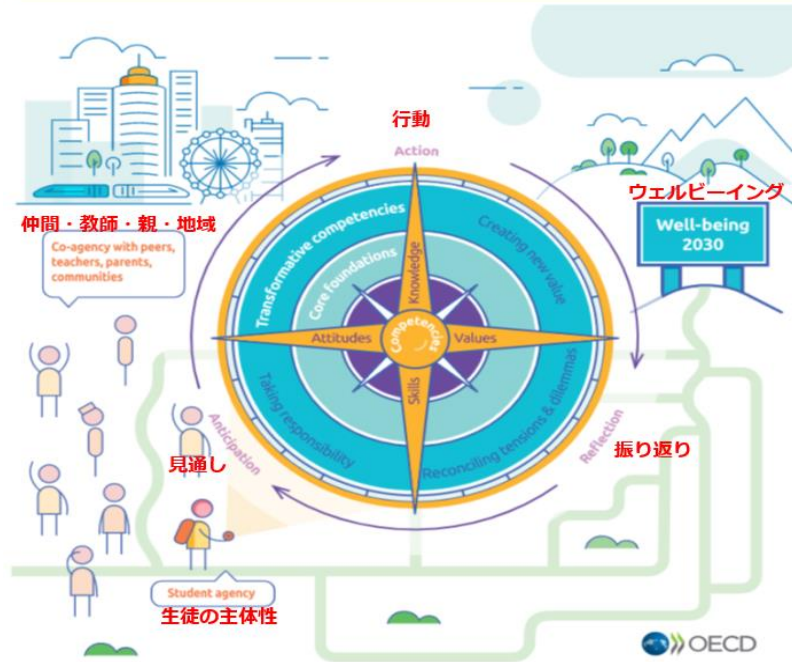
子供を取り巻くつながりが生み出す ウェルビーイング

愛媛大学大学院教育学研究科
教育実践高度化専攻（教職大学院）
リーダーシップ開発コース 教授
露口健司 tsuyuguchi.kenji.mg@ehime-u.ac.jp

1 ウェルビーイング視点から見た地域の教育活性化

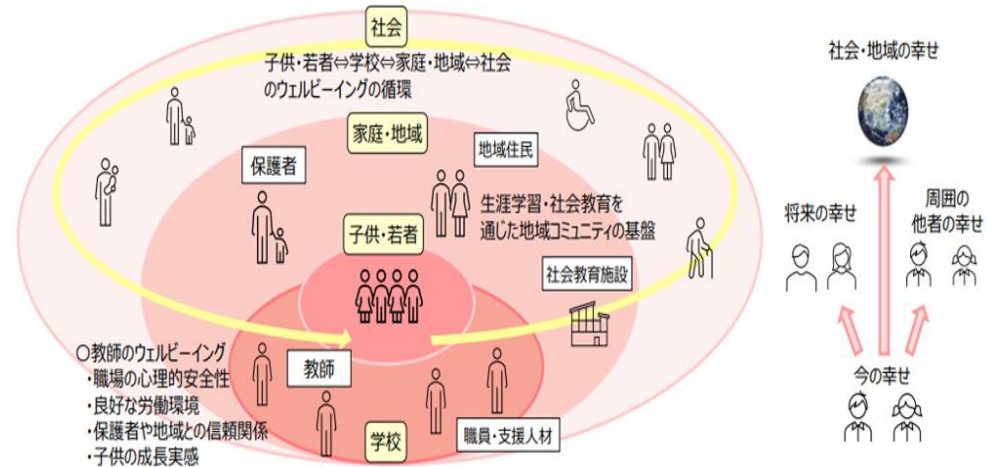
OECD= 到達モデル

The OECD Learning Compass 2030



教育振興基本計画=循環モデル

※地域内各所での協働(学習)活動によって生成されるつながりを通して、人々は成長し、ウェルビーイングが循環蓄積される。



■ウェルビーイング視点からみる地域の教育活性化とは・・・

子供や地域住民が、豊かなつながりの中で、楽しく学び成長することで、私も私たちも、持続的に幸せを実感できる教育・学習活動づくり

2 ウェルビーイングとは？

Well-Being

※身体的・精神的・社会的に良い状態にあること【要素】

※短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含む【時間】

※個人（私の幸せ）と集団（私たちの幸せ）がともに幸せを感じられる良い状態を含む【空間】

※楽しくて幸せ（享楽）、学びに没頭して幸せ（成長）の両面を含む【場面】

身体的

健康感

成長感

持続感等



精神的

達成感

充実感

肯定感等



社会的

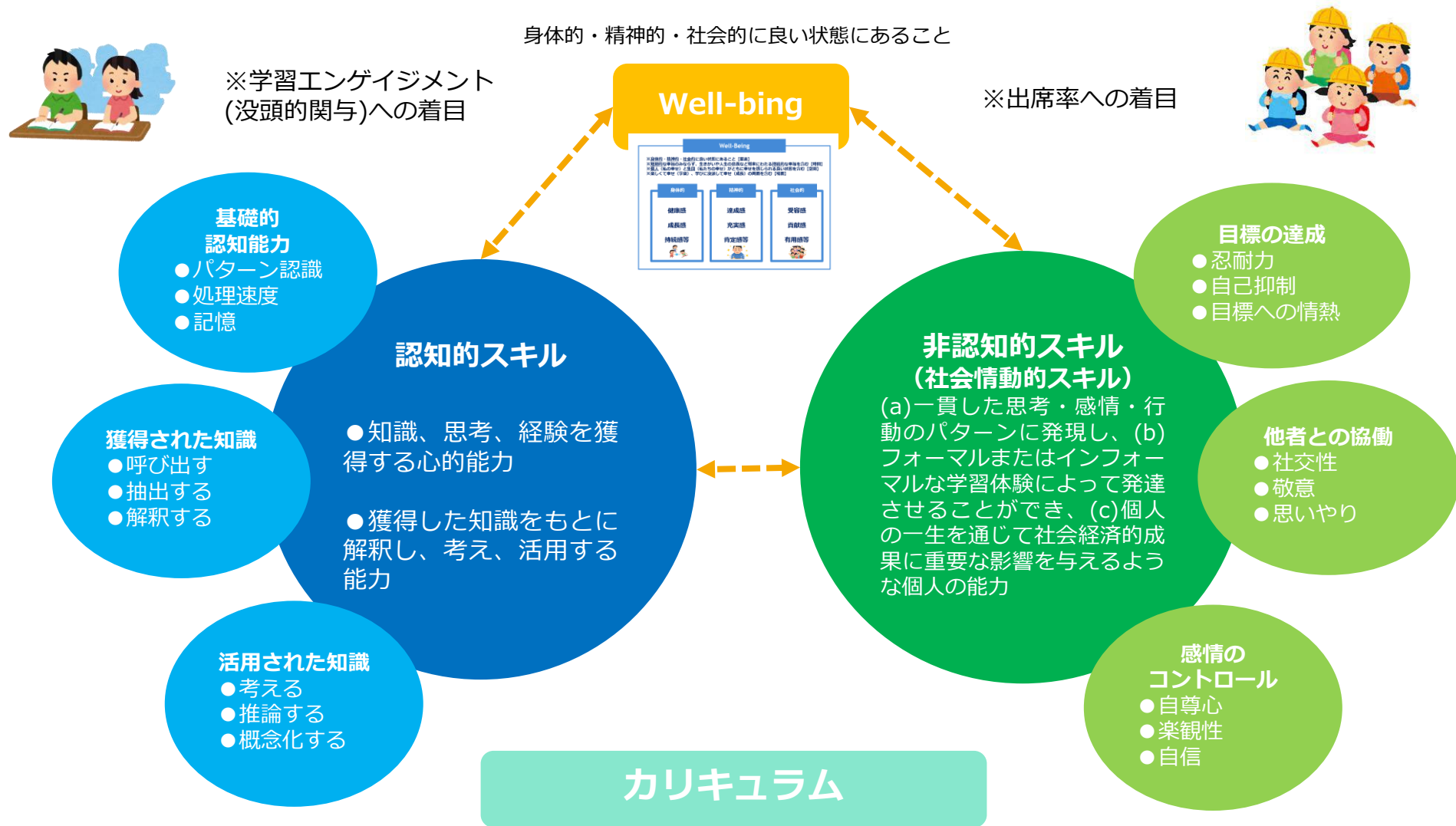
受容感

貢献感

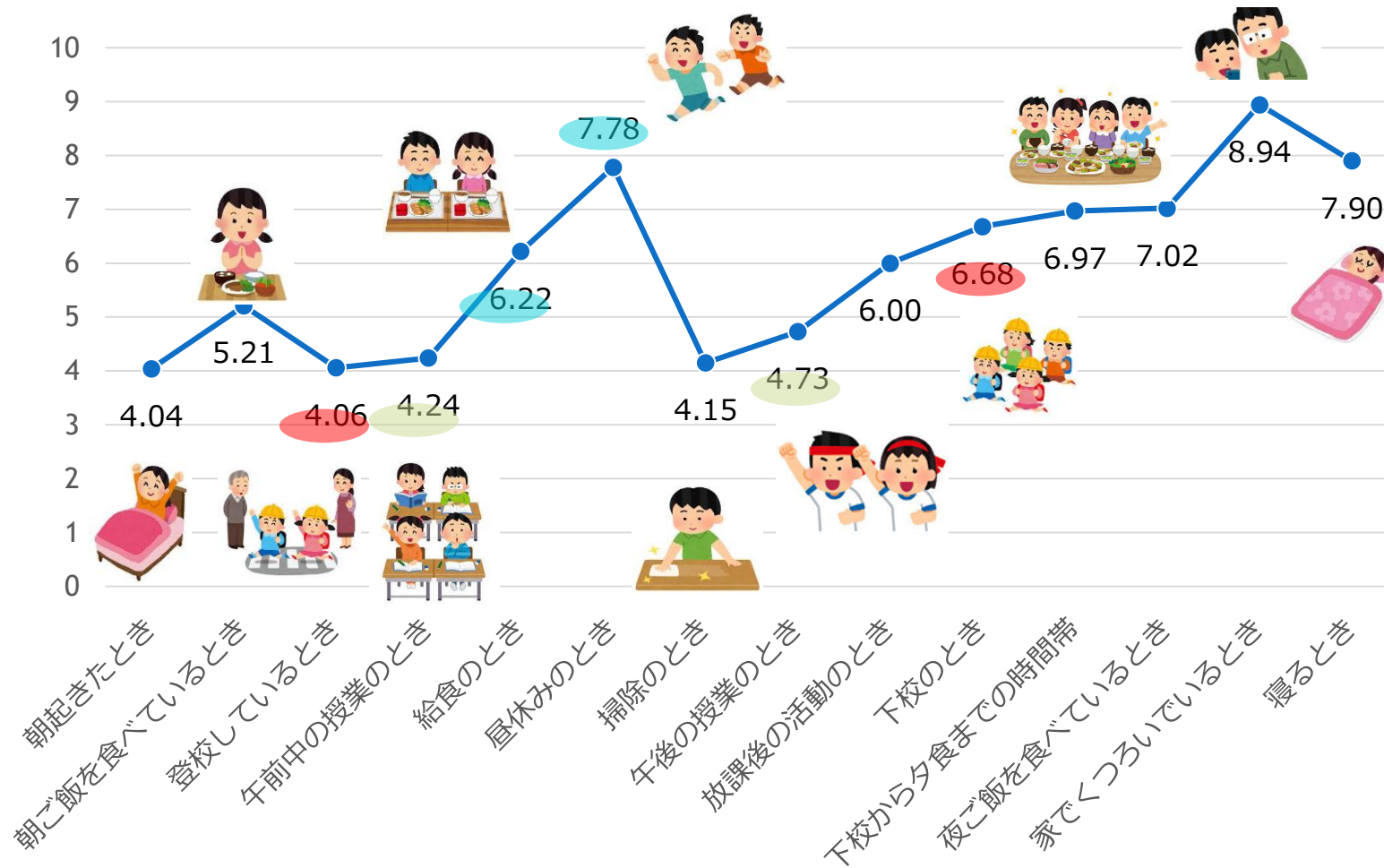
有用感等



3 子供のウェルビーイングと認知的／非認知的スキル



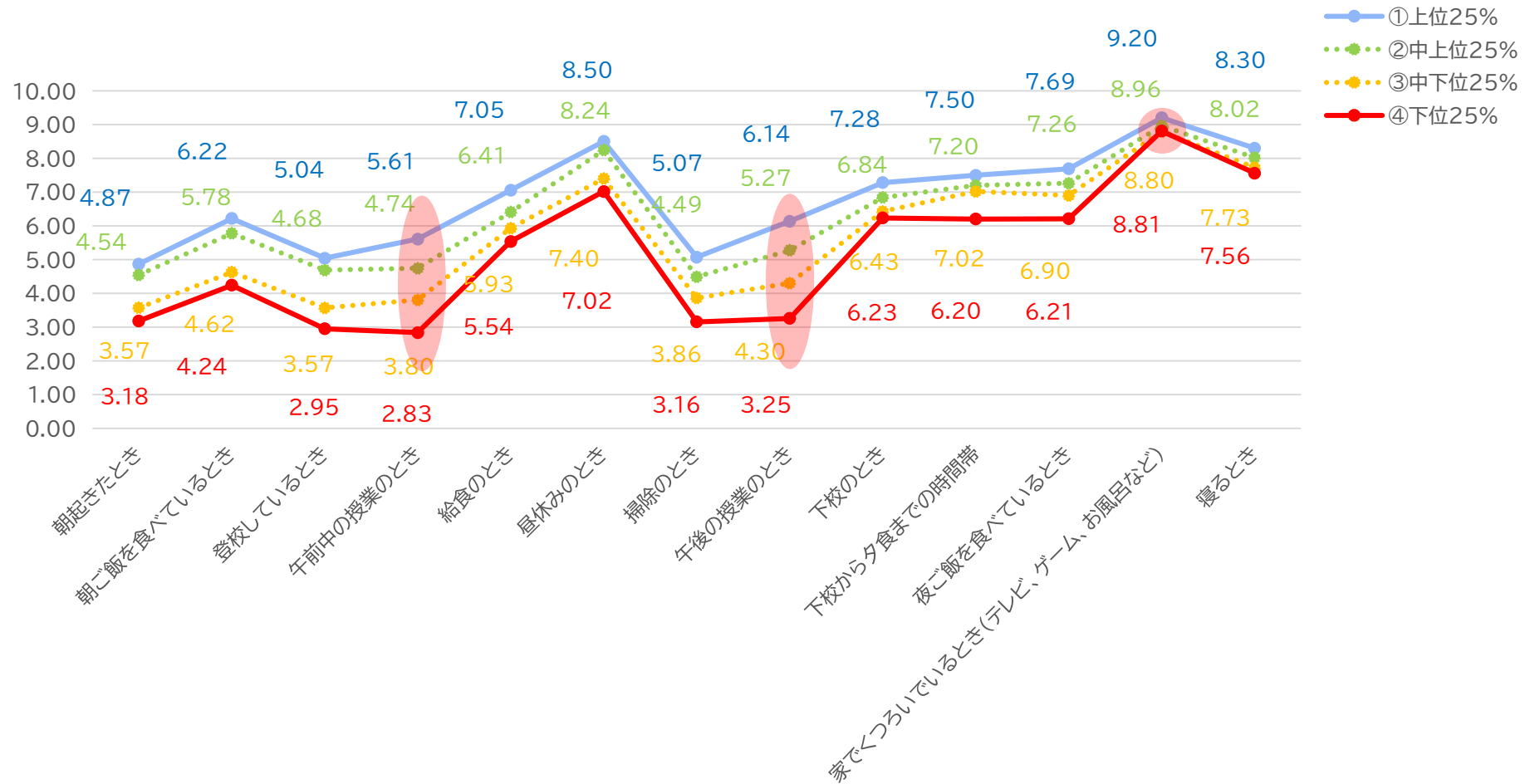
4_1 子供の1日のウェルビーイングの推移



※露口健司(2023).「地域社会のウェルビーイングを高める社会教育の可能性」『月刊社会教育』2023.2, 12-16.

4_2 子供の1日のウェルビーイングの推移

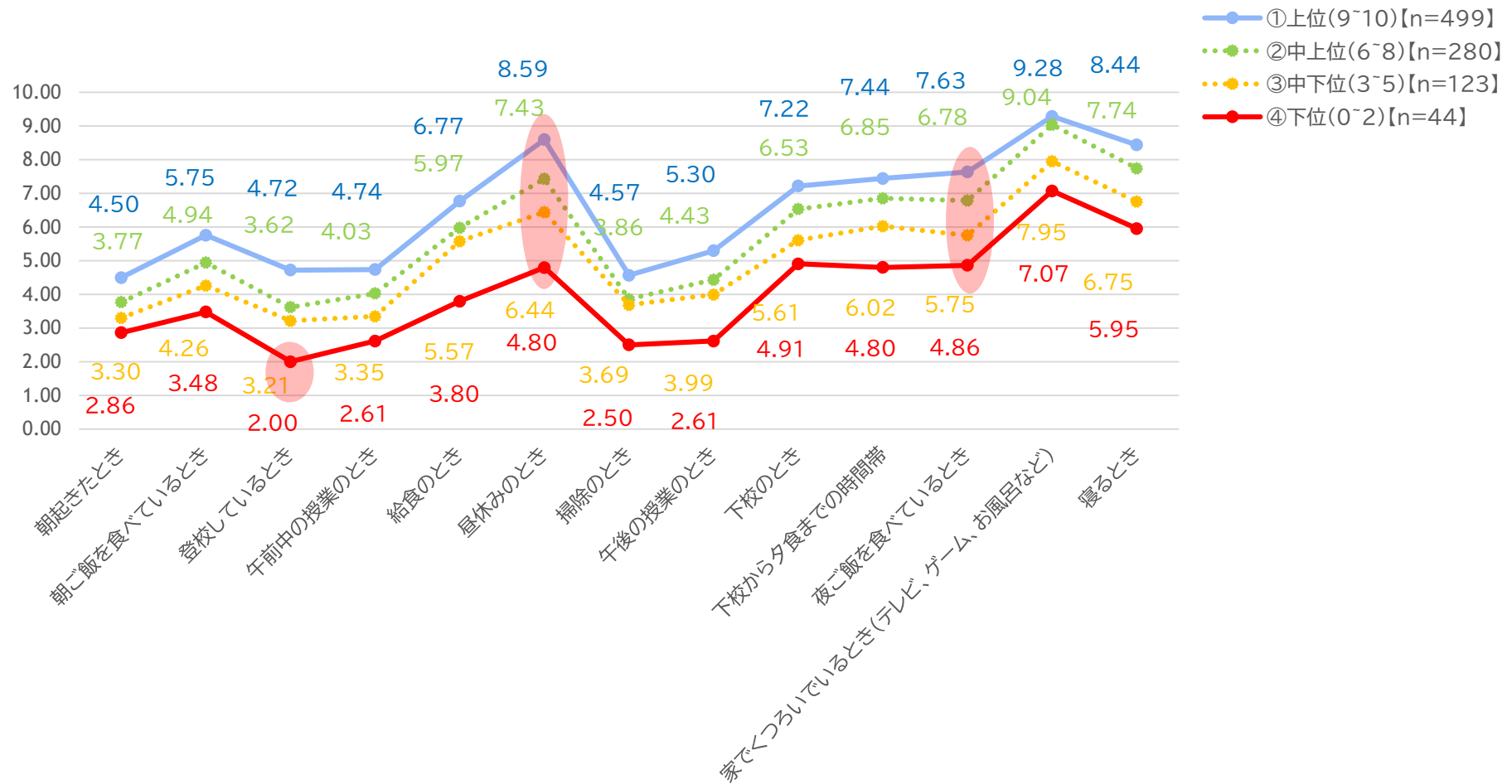
学習意欲・算数×1日のウェルビーイング推移



※露口健司(2023)のデータを使用。2021年11月実施。A県内15校、小学校4-6学年、955人が回答。

4_3 子供の1日のウェルビーイングの推移

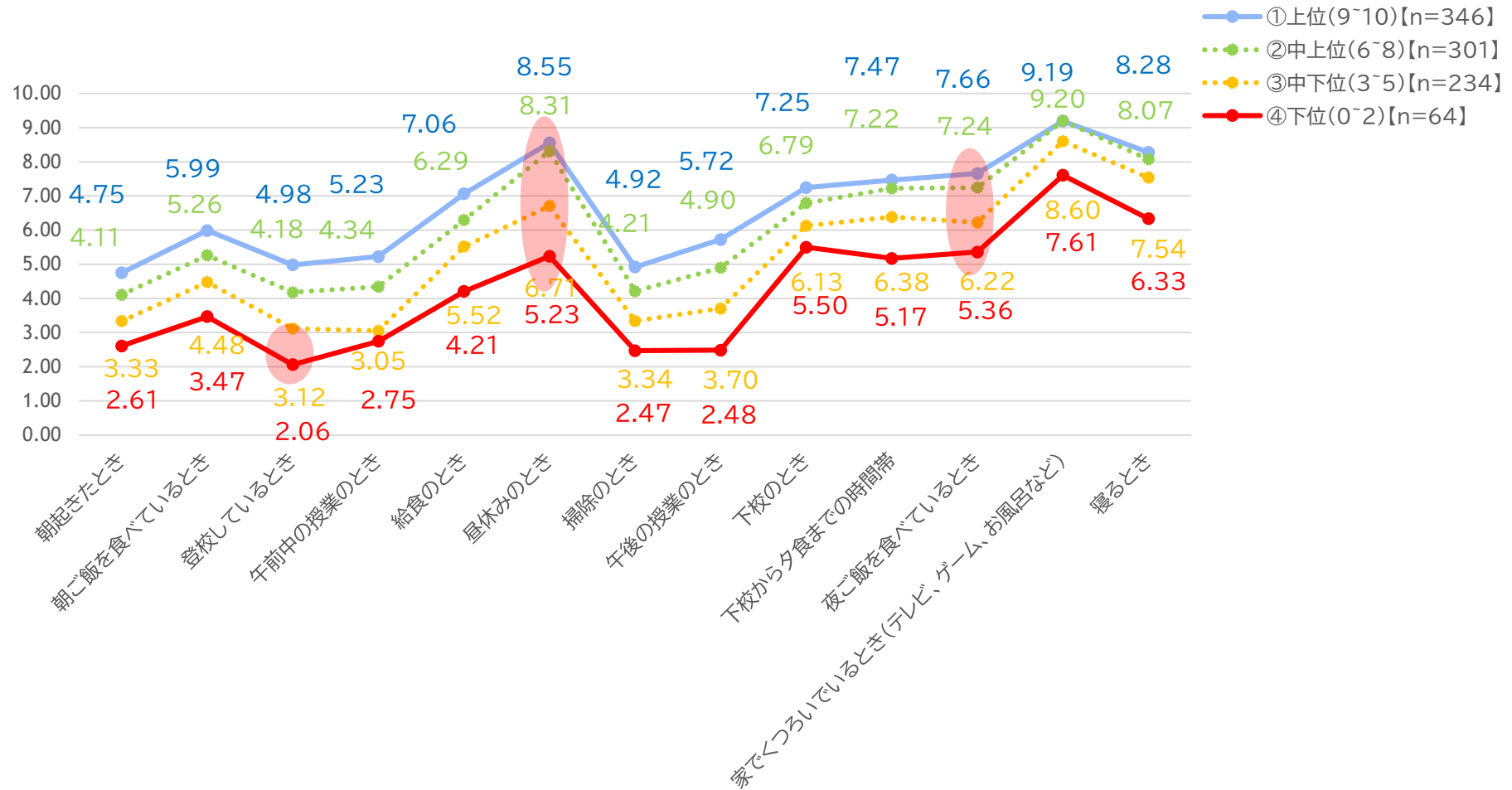
友人への信頼×1日のウェルビーイング推移



※露口健司(2023)のデータを使用。2021年11月実施。A県内15校、小学校4-6学年、955人が回答。

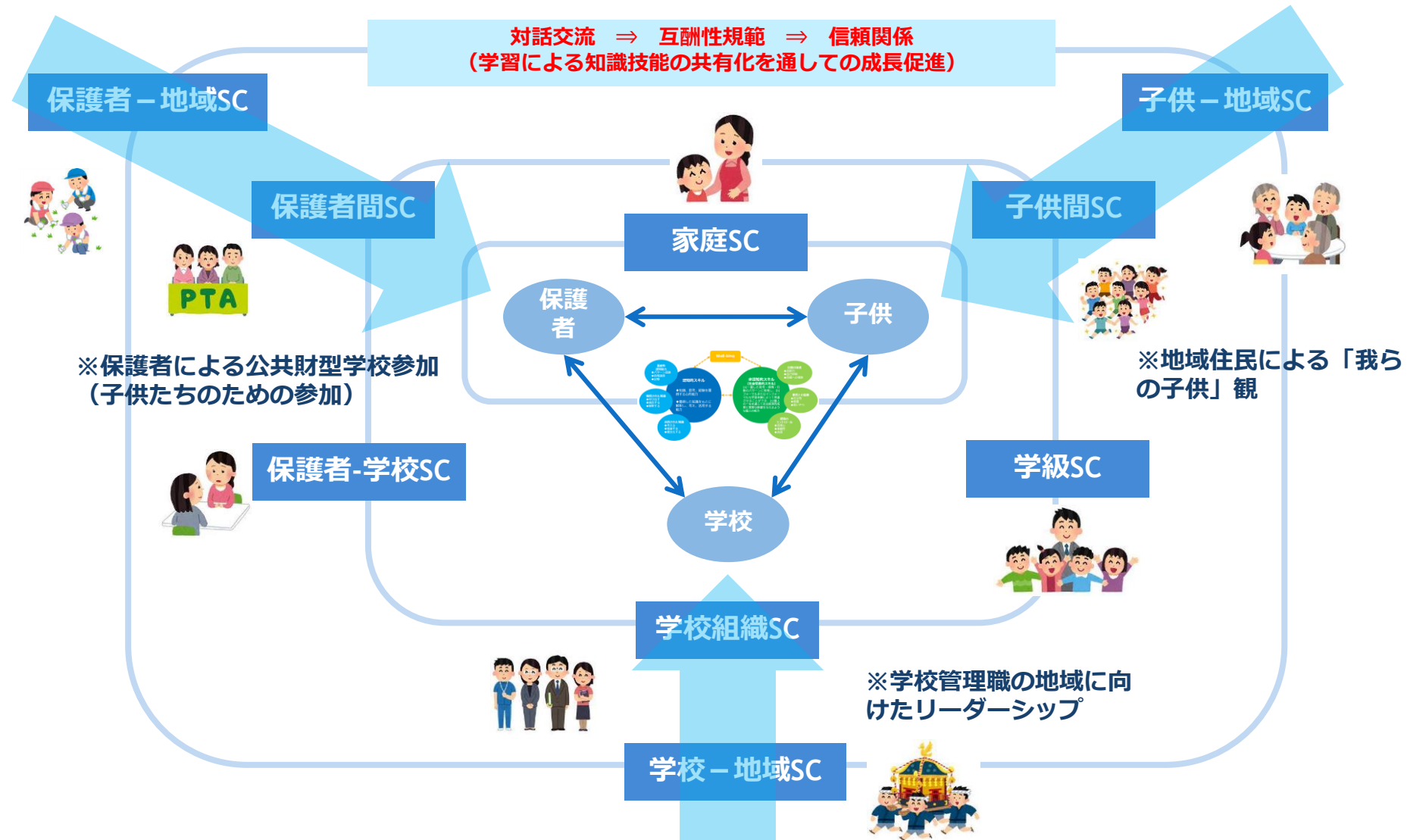
4_4 子供の1日のウェルビーイングの推移

先生への信頼×1日のウェルビーイング推移



※露口健司(2023)のデータを使用。2021年11月実施。A県内15校、小学校4-6学年、955人が回答。

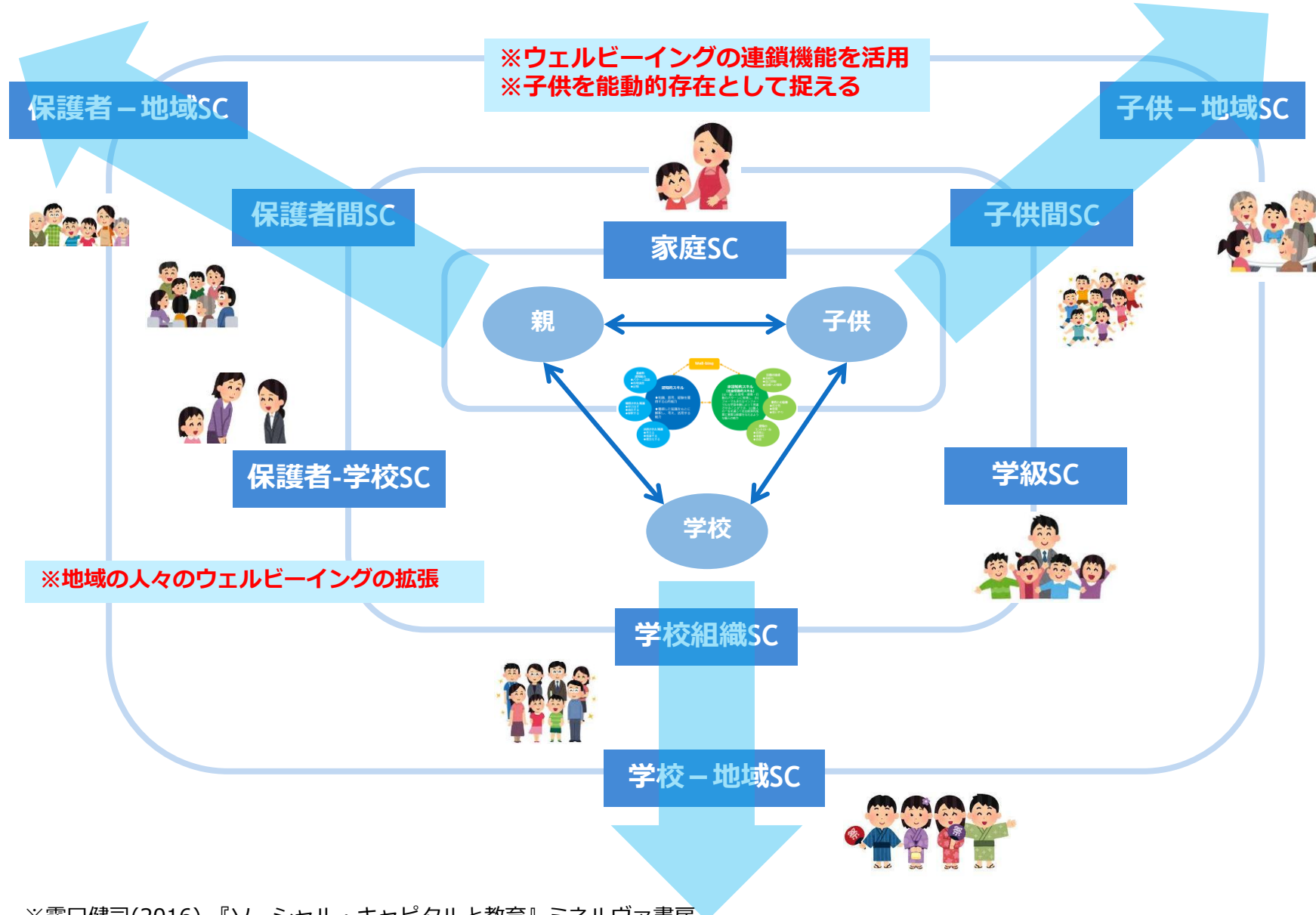
5 子供の成長を支えるつながりの単位



※SC; Social Capital (社会関係資本, 社会的つながりの程度)





※露口健司(2016). 『ソーシャル・キャピタルと教育』 ミネルヴァ書房

6 子供たちが支える地域のウェルビーイング



7 地域のウェルビーイング総量の向上へ

※子供たちと交流することで、下記の意識・態度が醸成され、地域の人々のウェルビーイングが高まる!!

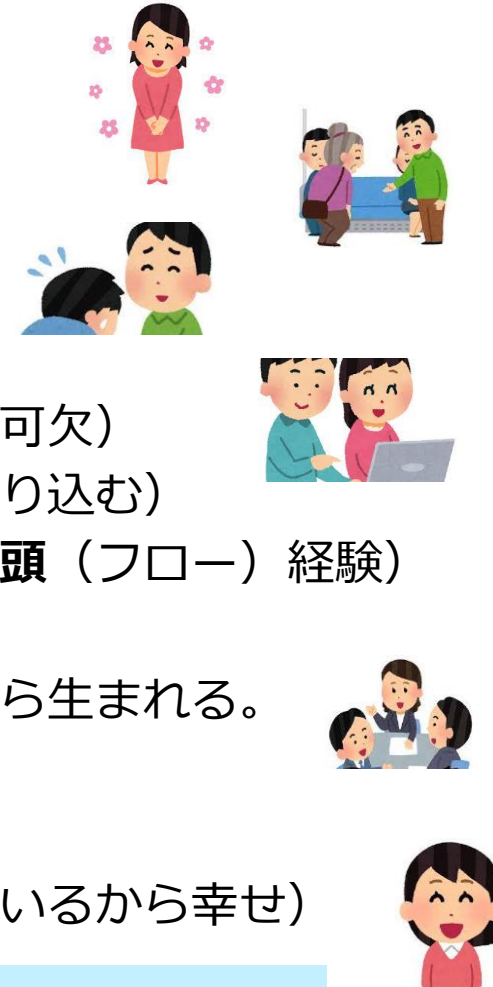
観点	項目例
助け合い	地域の人々の役に立とうとしている。
地域参加	地域のボランティア活動に参加している。 
魅力	地域のよいところについて人々と会話する。
社会関係	地域の人々に親しみを感じている。 
楽観性	地域には明るい未来がある。
結束	地域の人々は対立を乗り越えている。
交流意欲	地域の人々の名前を覚えるようにしている。 
安全	日中に地域を1人で歩くのは安全である。
関与	地域の中で自分の意見を安心して述べることができる。 
配慮	地域の人々が必要とすれば、支援を提供している。
再起性	災害等が発生したとしても、すぐに回復できる。

児童生徒
保護者
教職員
地域住民

※Baldwin et al.(2020).Measuring Well-Being: Trial of the neighbourhood thriving scale for social well-Being among pro-Social individuals. International Journal of Community Well-Being, 3:361-390.を参考に作成。

8 ウェルビーイングの循環を促進するリーダーシップ実践例

- **感謝**の気持ちを表す（ありがとう言った私が幸せに）
- **楽観的**になる（計画は悲観的に、行動は楽観的に）
- 他者と比較しない（隣の芝生の青さを喜ぶ）
- **親切**に接する（親切に接した私が幸せに）
- 人間関係を育てる（**対話**の時間、スキンシップ）
- ストレスの**抵抗力**を持つ（ストレスは人生において必要不可欠）
- 人を許す（憎悪の感情を取り除き、**寛大と慈愛**の感情を取り込む）
- 熱中できる活動を増やす（天職としての職業観、集中・**没頭**（フロー）経験）
- **喜び**を深く味わう（楽しかった思い出話）
- **目標**達成に全力を尽くす（幸福は目標を追い求めることから生まれる。達成から生まれるものではない。）
- 運動する（仲間との**協調**スポーツが望ましい）
- 笑う、**笑顔**で過ごす（幸せだから笑うのではなく、笑っているから幸せ）



※子供・保護者・教職員・地域住民のウェルビーイングの総量としての
コミュニティウェルビーイングの醸成 ⇒幸せだからうまくいく!! を地域レベルで実現

両立のカギは
教員を取り巻く信頼関係に!!

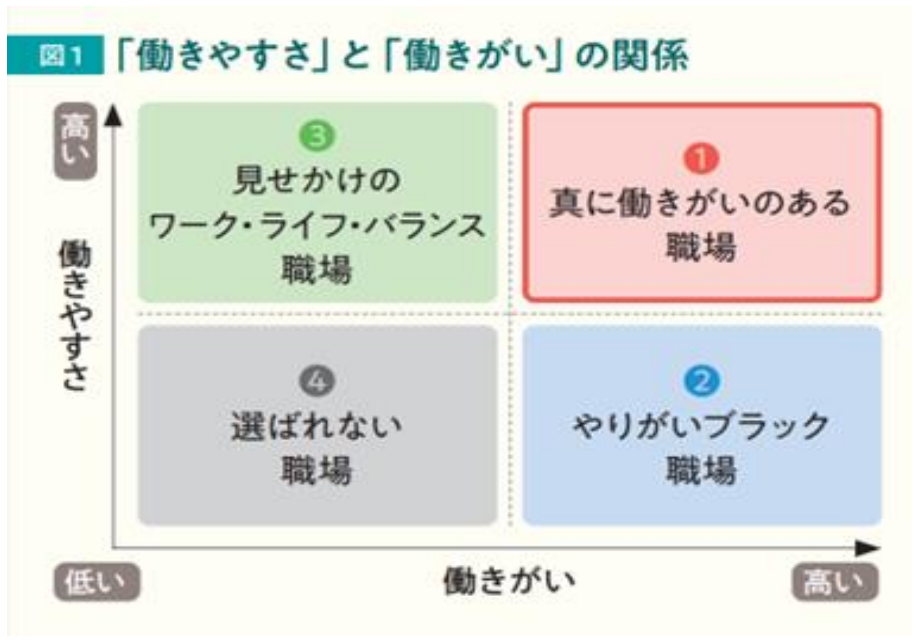
「働きやすさ」と「働きがい」

- 「働きやすさ」次元では、教員の健康・安全・福利厚生を重点テーマとし、心にゆとりを持って安心して働ける組織・職場づくりが目指される。
- 「働きがい」次元では、教員が仕事に熱意と誇りを持ち、仕事を通しての達成感・充実感・成長感が得られる組織・職場づくりが目指される。

図3 「働き方改革」と「働きがい改革」の違い 高度専門職としての働き方へ

働き方改革の価値 (働きやすさ)	働きがい改革の価値 (働きがい)
時間短縮重視	ワーク・エンゲージメント重視
上限を超えないことが最優先	家庭生活を含めたウェル・ビーイング重視
キャリアを問わず画一的	キャリアに応じて弾力的
全員に画一的に対処	オーダーメイドの多様な生き方を認める
働き方は管理職が押しつける	働き方は教員が主体的に考える (自律的専門職)
働き方に関するルールがどんどん増える	ルールは最小限
労働者としての教員像	高度専門職としての教員像
教員の意識改革に責任を帰属	管理職のマネジメントに責任を帰属
業務の量的縮減を目指す	業務の質的改善を目指す
時間を超えて頑張る教員に罰がある	時間を超えて頑張る教員も報われる
ワーク・ライフ・バランス	ワーク・アズ・ライフ**
信頼の優先順位が低い	信頼の優先順位が高い
自分の幸せ	子どもやほかの人々の幸せ
今の自分を楽にする	未来の自分を楽にする
仕事を減らす	仕事を面白くする
何よりも早く帰ることが大切	教職の使命こそが大切

※露口教授の提供資料を基に編集部で作成。



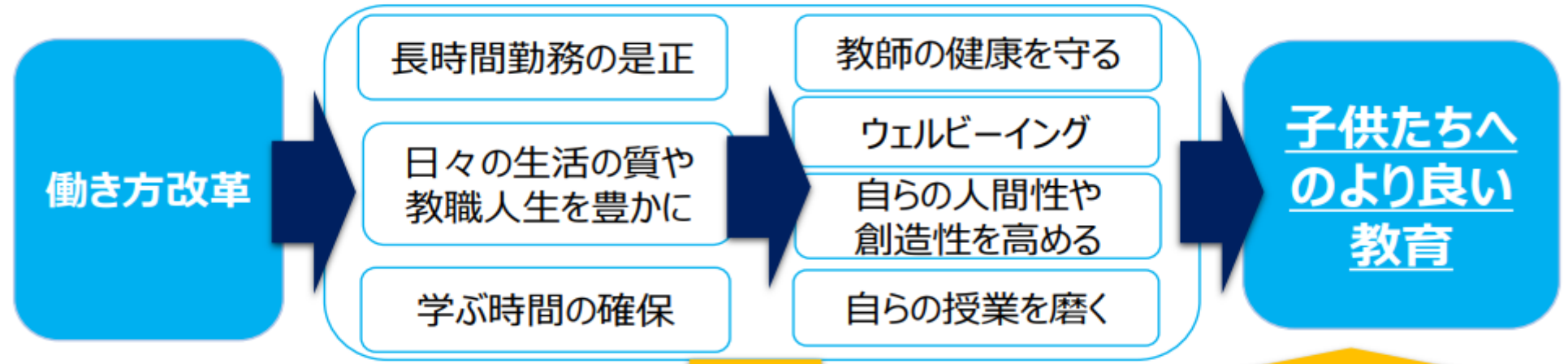
中央教育審議会【答申】 2022.12.19

校長のマネジメントについても、学校で働く人材の多様化が進む中で、職場の心理的な安全を確保し、**働きやすい**職場環境を構築するとともに、教職員それぞれの強みを活かし、教師の**働きがい**を高めていくことが一層求められる。

中央教育審議会中央教育審議会初等中等教育分科会 質の高い教師の確保特別部会【提言】 2023.8.23

これから長い教職人生を歩む若手教師をはじめとする全ての教師はもとより、教師を志す学生等にとっても、学校が、**働きやすさ**と**働きがい**を両立する職場であることは重要なことである。

Q. なぜ、学校における働き方改革が必要なのでしょう？



‘子供のためにあればどんな長時間勤務も良しとする’
という働き方は、教師という職の崇高な使命感から生まれるものであるが、その中で**教師が疲弊**していくのであれば、それは**‘子供のため’にはならない**。

教職の魅力向上

優れた人材の確保

中央教育審議会「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）」（令和5年8月）（抜粋）

今般の改革の目指すべき方向性は、教師のこれまでの働き方を見直し、長時間勤務の是正を図ることで教師の健康を守ること
はもとより、日々の生活の質や教職人生を豊かにするなど教師のウェルビーイングを確保するとともに、**自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対してより良い教育を行うことができるようにすること**

また、高度専門職である教師が、学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、**働き方改革により創出した時間も活用しつつ、教職生涯を通じて新しい知識・技能等を効率的・効果的に学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たす**

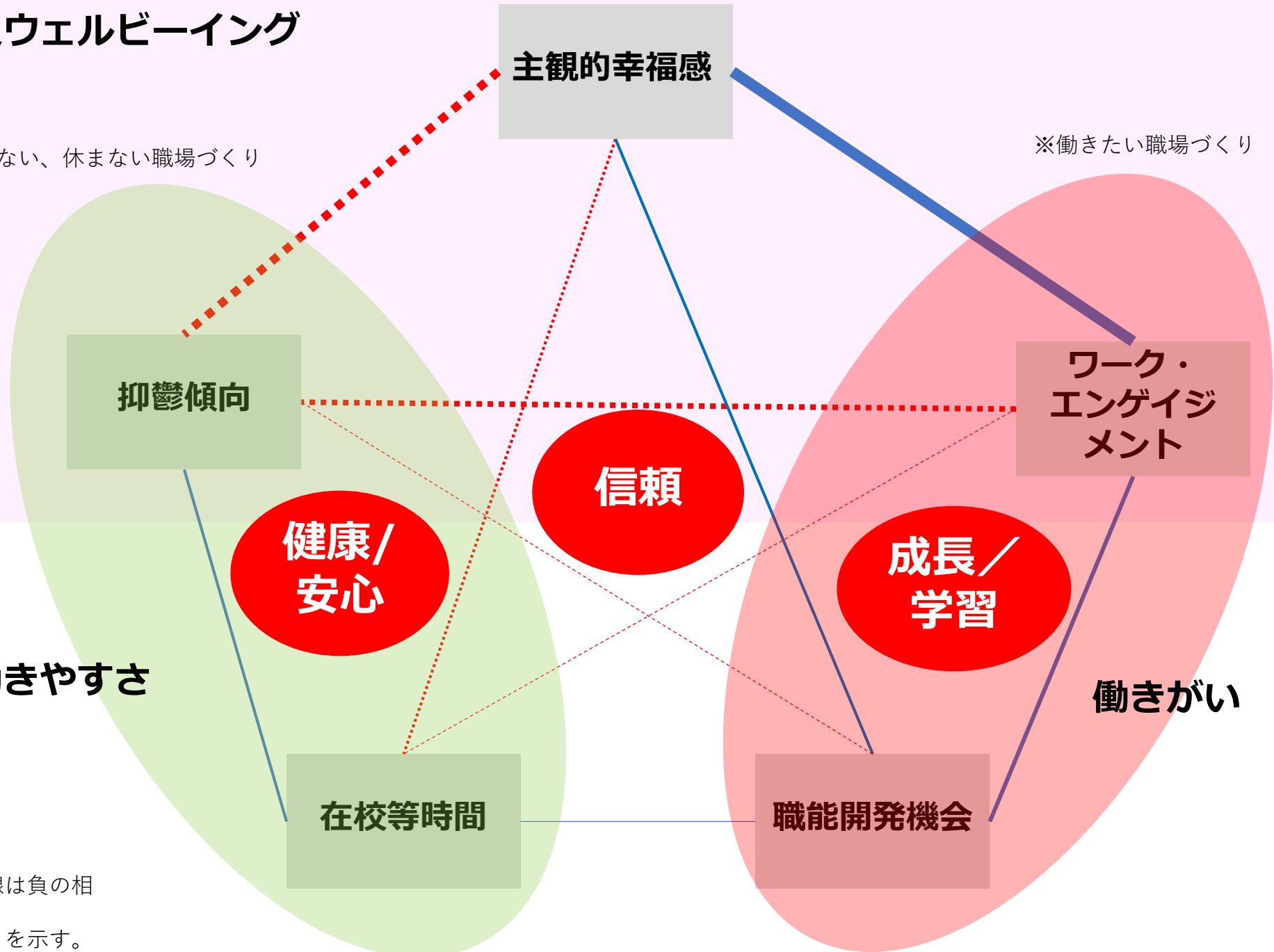
文部科学大臣メッセージ「子供たちのための学校の働き方改革 できることを直ちに、一緒に」（令和5年8月）（抜粋）

この改革の目的は、働き方の改善により教師が学ぶ時間を確保し自らの授業を磨くこと等を通じて、**子供たちにより良い教育を存分に行う**ことができるようにすることです。

教員ウェルビーイング

※やめない、休まない職場づくり

※働きたい職場づくり



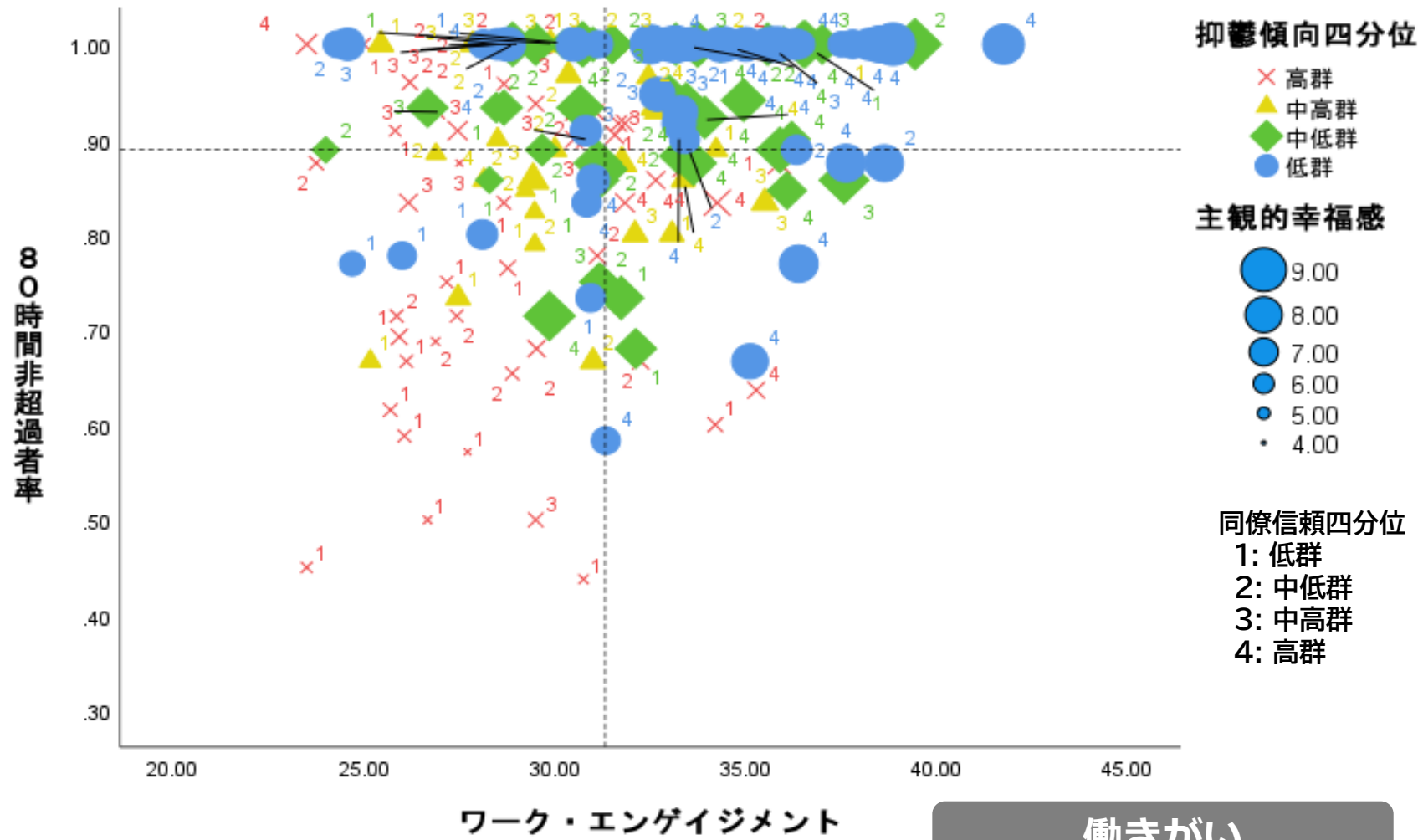
※実線は正の相関，破線は負の相関。
※線の太さは相関の強さを示す。



【小学校】教職が問題ではない。どこで働くかが問題。

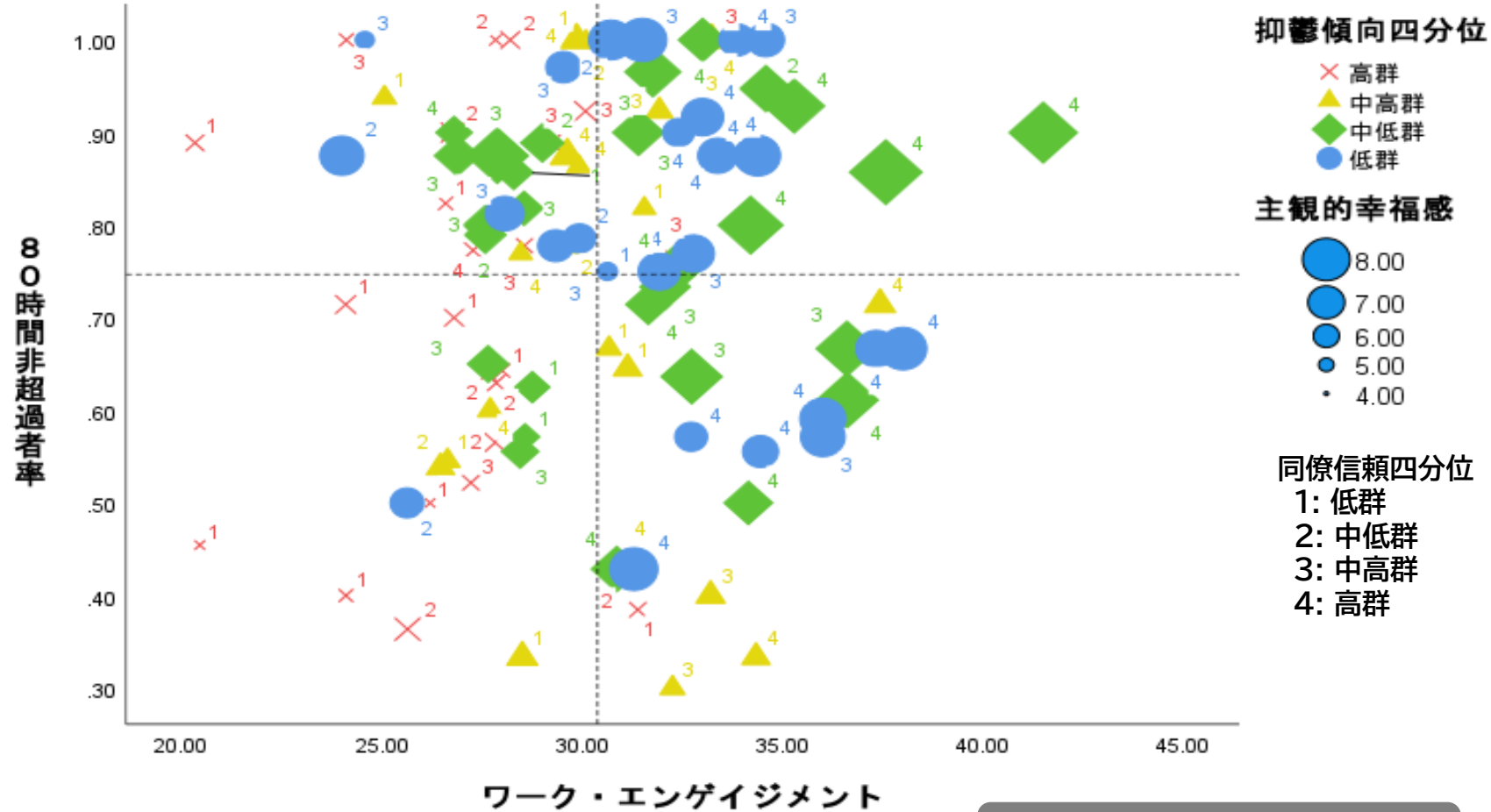
題。

働きやすさ



【中学校】 教職が問題ではない。どこで働くかが問題。

働きやすさ



働きがい

学びを深めたい方へ

学校の働きやすさ・働きがい改革

教員のウェルビーイングを高める

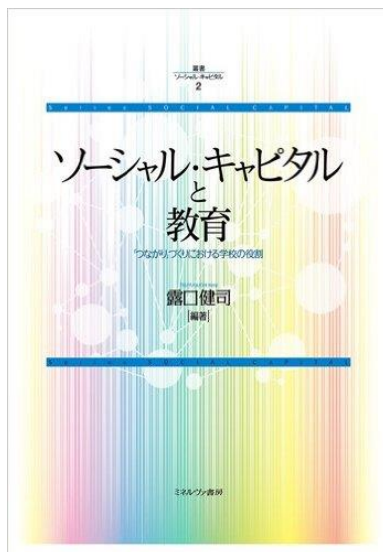
露口健司
Tsuyuguchi Kenji

働きがい 信頼関係 専門職性 マネジメント

4つの視点から、教員の働き方の実態を捉えなおし、教員のウェルビーイングを高める方法を提案！

© 教育開発研究所

2024年2月刊行!!



※ご清聴並びにご協力、誠にありがとうございました。